

受験シーズン目前！東京の大学に通う、学生 984 人に聞いた

イマドキの大学生の「ひとり暮らし」事情 ～部屋探し編～

約 6 割の学生が今住んでいる部屋に満足していない。

震災直後の不安の第 1 位は「家族が近くにいない」こと。

進路選択の時期にある高校 3 年生も少しずつ進学先や就職先が決まり始めてくるこの時期。センター試験が 1 ヶ月半後に迫り、その後は私立の一般入試も次々と始まる。まさに受験シーズン目前だ。この受験が終われば、希望と不安を胸に、ひとり暮らしを始める新入生も多い。そこで、オウチーノ総研（本社：東京都港区／賃貸サイト「キャリアーノ」、購入サイト「オウチーノ」などを運営）は、東京の大学に通う大学生 984 人を対象にひとり暮らしに関する実態調査を行った。今回はその第 1 弾として、『イマドキの大学生のひとり暮らし事情／部屋探し編』をお送りする。

大学生がひとり暮らしを始めるのは、大学入学が主なタイミング。とは言っても、受験生は合格が決まるまで受験勉強や入試でそれどころではなく、入試、もしくは合格発表から入学までの短い期間で部屋探しから引越しまで済まさなければならない。また、初めてひとり暮らしをする人がほとんどで、経験も知識も乏しい上に、引越し費用や家賃も親に頼らざるを得ない。その結果として、親に部屋を決めてもらう人も少なくないようだ。このように大学生の部屋選びは、金なし、時間なし、知識なし、決定権なしの「四なし」部屋探しが多くなってしまふことが分かった。

■ 詳しいアンケート結果、その他のアンケート結果はこちら

<<http://article.home-plaza.jp/article/trend/071/>>

■ 詳しいデータは添付資料をご確認ください。

【調査結果】

1. 引越し費用・家賃は全額親持ちがほとんど

現在東京でひとり暮らしをしている大学生で、引越し費用を全額親に負担してもらった人は 96.3%。また、家賃を全額負担してもらっている人も 91.7%に及んだ。ちなみに家賃で最も多い価格帯は、6 万円台で 30.8%、家賃平均は 6.3 万円だった。

2. 59.2%が現在住んでいる部屋に満足していない

ひとり暮らしをしている大学生の 59.2%が、現在住んでいる部屋に対して「もっと色んな物件を見ればよかった」「もっと早い時期から探しておけばよかった」「大学から近い物件にすればよかった」など何らかの不満を感じている。また、「いつ部屋探しを始めたか」の問いに、63.0%が入居の 1 週間～1 ヶ月前と答えた。大学入試後の短い時間で部屋探しから引越しまでを済まさなければならない上に、当然のごとくまだまだ知識も乏しい。その結果、「もっと色んな物件を見ればよかった」といった後悔、不満につながっているのではないだろうか。

3. 部屋を決める際に親の意見を取り入れた学生は 92.6%

「部屋を決める際、親に相談等はしたか？」という問いに対して、「ほとんど親が決めた」が 55.6%、「親と相談して決めた」が 37.0%で、合計すると、部屋を決める際に親の意見を取り入れた学生は 92.6%に上った。これは、前述した「金なし」「時間なし」「知識なし」も原因のひとつだろう。受験の時期は時間も知識もないため親に頼らざるを得ず、一方で費用を出すのは親なので、親が意見も出すことになる。また、大学生の場合は親が契約者となるので、親の

図 1 部屋を決める際、親に相談等はしましたか？

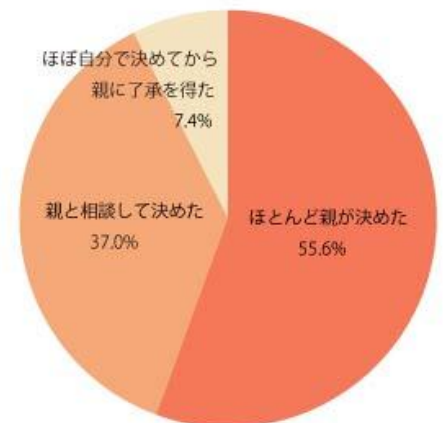
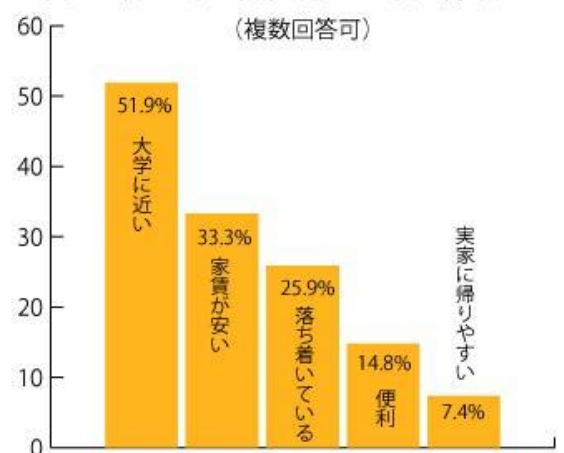


図 2 今住んでいる街を選んだ理由は何ですか？



■ このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。 ■

株式会社ホームアドバイザー（オウチーノ総研／清水）〒105-0012 東京都港区芝大門 2-9-16

<TEL : 03 (5402) 6887 FAX:03 (5402) 3313 E-MAIL : hp-socket@homeadvisor.co.jp>

意見を取り入れるのも当然と言える。しかし、「ほとんど親が決めた」と答えた大学生が現在住んでいる部屋に満足していない割合は、「親と相談しながら決めた」という大学生より 16.6%多い。このことは、入居者である大学生が意志決定に参加しなかったことの代償が予想外に大きいことを意味する。何につけ、任せっぱなしは不満の元と言える。

**4. 住む街を選んだ理由の第1位は「大学に近い」こと (51.9%)**

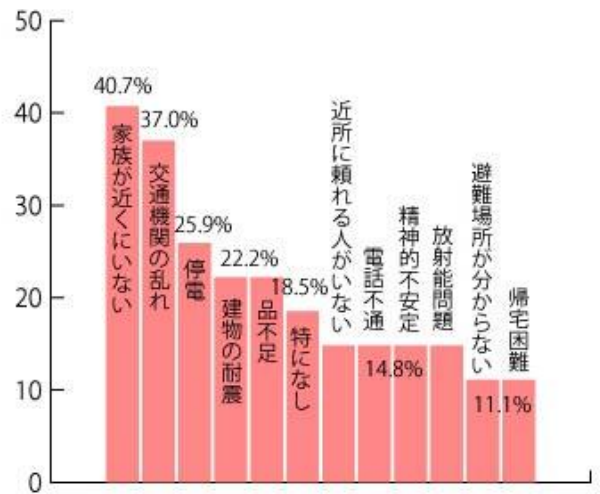
ひとり暮らしをしている大学生が、現在住んでいる街を選んだ理由の第1位は「大学に近い」で 51.9%。2位は「家賃が安い」で 33.3%、3位は「落ち着いている」で 25.9%だった。

本調査で、実際に「通学する大学の最寄駅周辺に住んでいる大学生」は 30.8%に過ぎなかったが、「大学まで乗り換えなしで通える街に住んでいる大学生」も含めると 73.1%にも達した。サラリーマンの「職住近接」志向ならぬ大学生の「学住近接」志向がうかがえる。

**5. 震災直後の不安「家族が近くにいない」が第1位**

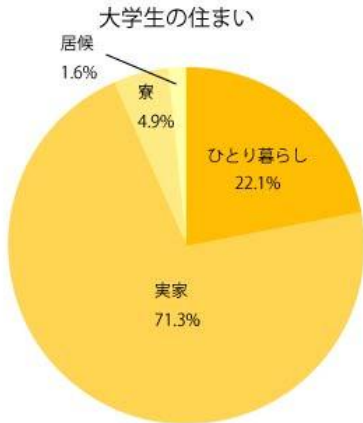
東日本大震災の直後、ひとり暮らしで不安を感じたことは何かを聞いた。最も多かったのは「家族が近くにいない」で 40.7%だった。仕送りなど金銭面だけでなく、いざという時、心理面でも支えてくれる家族の存在の大きさを痛感した人も少なくなかったようだ。以下、「交通機関の乱れ」37.0%、「停電」25.9%と物理的な不安が続いた。今回の震災は昼間にあった地震ということで、電話が通じず家族と連絡が取れない不安はあったものの、周りに誰かがいて声をかけ合い、助け合った、というケースも少なくなかっただろう。この震災がもし夜起こっていたなら、不安の様相も、重みもまた違ったものになっていたかもしれない。

図3 震災直後、ひとり暮らしで不安を感じたことは何ですか？(複数回答可)



- 詳しいアンケート結果、その他のアンケート結果はこちら  
<http://article.home-plaza.jp/article/trend/071/>
- 詳しいデータは添付資料をご確認ください。

【データ編】



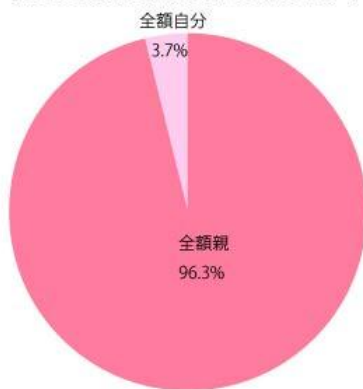
今回調査した大学生のうち、ひとり暮らしの割合は 22.1%、実家暮らしの割合は 71.3%だった。

どのタイミングで引っ越しましたか？



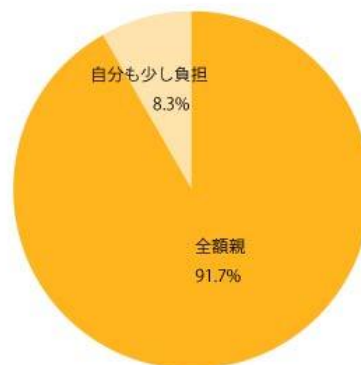
現在ひとり暮らしをしている大学生の 85.2%が大学入学時に引越しをした。

引越し費用は誰が負担しましたか？



現在ひとり暮らしをしている大学生の 96.3%が引越し費用を全額親に負担してもらった。

家賃は誰が負担していますか？



現在ひとり暮らしをしている大学生の 91.7%が家賃を全額親に負担してもらっている。

現在住んでいる部屋：家賃



ひとり暮らしをしている大学生の部屋の家賃で一番多いのは 6 万円台。次に 5 万円台と 7 万円台が続く。

部屋探しを始めたのは入居のどれくらい前ですか？



現在ひとり暮らしをしている大学生の 63.0%が入居の 1 週間～1 ヶ月前に部屋を探し始めている。